

7/25
7/25

戦争のリアル 直視して

戦争法案

今言わなければ

安倍政権は、安保法制（戦争法案）の成立を急いでいますが、集団的自衛権を行使し、アメリカといっしょに戦争をした場合に、どんなことになるのか。リアリティーのある議論がありません。

敵が誰か不明確

第2次世界大戦では、敵がはっきりしていました。だが、「対テロ戦争」では、誰が敵なのか、明白ではありません。実話に

京都女子大教授 市川 ひろみ さん



基づく映画「アメリカン・スナイパー」で、主人公は、子どもと女性を射殺します。彼らが武器を持っているように見えた

私には、カナダに逃げていたイラク帰還兵にイン

いちかわ・ひろみ
京都女子大学法学部教授。専門は国際関係論・平和研究。著書に『兵害拒否の思想』。共著に『地域紛争の構図』『国際関係のなかの子ども』など。

たビューしたことがありません。彼は検問所で、車が停止線止まらなかつたため、射撃するように言われました。しかし、彼にはその車が脅威とは思えなかつたので、撃ちませんでした。車が止まって、乗っていたのはイラク人家族であることがわかり、彼は、「ほら、罪

からです。もし、それが武器でなく、間違いで殺したら「軍法会議行きだ」というようなセリフがあります。そういうストレスの中で、兵士は勝手に自分で判断しなければなりません。

の無い無害の人じゃないか」と言いましたが、「次番組で若い人たちに、戦争は撃つんだぞ」と咎められました。もし、その車が目撃攻撃に使われていたら、彼のみなならず、仲間もみんな死んでいたかもしれません。軍事的判断としては、最悪を想定して行動します。

9条があるから

イラクの戦場では、戦闘任務には就かない女性兵士も、武器を運び、負傷者を手当てしました。当然、攻撃もされます。死体の後片付けなどの任務は、精神的ダメージも大きいです。

PTSD（心的外傷後ストレス障害）になるケースが非常に多く、帰還兵の家庭内暴力の比率は高いです。

特攻隊の生き残りで立命館大学名誉教授の岩間き手・写真 渡辺健